《資料》部落解放研究関係文献目録（一九八五年一月～三月）

【現状】

駒井昭雄ほか「都市部落の現状と課題」
（『部落解放』二二四号、1月）
羽音　豊ほか「農村漁村部落の現状と課題」（同右）
北山誠一ほか「部落の生活の現状と社会保障」（同右）
部落解放研究所福祉部会「全国部落実態調査中間報告―生活保護、年金、障害者を中心に」（同右）
向井　正ほか「部落婦人の現状と課題」（同右）
本多義信ほか「部落の労働の現状と仕事保障」（同右）
浅野隆広ほか「部落産業の現状と課題」（同右）
野崎地区部落実態調査推進委員会編『大阪部落実態調査野崎地区報告書　一九八五年一月』（同上、1月）
「矢田のあらまし」編集委員会編『矢田のあらまし　矢田地区要覧』（矢田同和教育推進協議会、1月）
奥山峰夫「〈ぶらく西・東〉京都市竹田深草地区」
（『国民融合通信』一二八号、2月）
《特集》「部落の婦人の仕事は今」
（『部落解放』二二七号、3月）
丹村末子・奥野恭子・山田信江ほか「〈座談会〉法的、制度的整備が不可欠」
東　洋子・高見キミエ・塩谷幸子ほか「〈座談会〉不況と『行革』の圧迫の下で～大阪の部落婦人の仕事と闘い」
日野範之「ルポ・婦人の仕事を見る～広島の部落で（上）」
部落解放同盟広島県連因島市協婦人部「〈座談会〉みんなが手をつないで仕事できたら、ほんまに、いいんです。」
日野範之「〈グラビア〉婦人の仕事～広島の部落で」
山崎　智「報告・三重における婦人の仕事保障の運動とその現状」
真戸原勲「現地報告・鹿児島県における部落問題の現状」
（『部落』四五五号、3月）
村崎修二「山口県東部の未啓発地区を往く」
（『国民融合通信』一二九号、3月）
新井直樹「〈ぶらく西・東〉住環境整備進む水戸市平須」
（同右）
東京都労働経済局編『東京都台湾・香港・シンガポール皮革産業

調査団報告書』（同上、3月）
東京都労働経済局編『中国における皮革産業の実情調査報告書』
（同上、3月）
東京都産業労働会館編『かわとはきもの№.51』
（同上、3月）
部落解放堺地区実態調査委員会編『部落解放堺地区実態調査報告書』（同上、3月）

【行政】

山口富造・荒木幹雄ほか「隣保館（解放会館）活動の現状と課題」（『部落解放』二二四号、1月）
岡垣町ほか『岡垣町同和行政十年の歩み』（同上、1月）
全国隣保館連絡協議会・全隣協近畿ブロック協議会編『近畿地区第八回隣保館職員研修会』（同上、1月）
斎藤　浩「『同促協』と行政の責任」
（『解放の道　大阪版』一七一号、2月）
《特集》「同和対策事業～その残された課題」
（『部落』四五五号、3月）
杉之原寿一「『地対法』期限切れに向けて～国への提言」
桜井正志「東日本少数点在部落の同和対策事業」
丹波正史「残された課題～愛知県の場合」
辻本　英「和歌山市の同和行政と芦原地区～事業の到達点と課題」
窪田充治「残された課題～高知県の場合」
末長　正「山口県における同和対策事業～残された課題」
田上和儀「一九八五年度地域改善対策予算をみる」（同右）
村尻勝信「（動向）行政・宮崎県の同和行政～第三セクター『同和対策協会』について」（同右）
尾崎勇喜ほか『夢も希望もある同和行政』（文理閣、3月）
滋賀県農協同和対策本部『農協同和対策事業概要』
（同上、1985年）
大阪市同和事業住吉地区協議会編『住吉地区協三〇年の歩み』
（同上、1985年）

【運動】

《一九八五年の部落解放運動の課題》
（『部落解放』二二三号、1月）
小森龍邦「一九八五年の部落解放運動の課題」
小田　実・上杉佐一郎「〈上杉佐一郎HOT SPOT〉いまこそ連帯を―世界と日本　反差別、反核・平和運動」
盛　善吉「石川のおばあちゃん―リイさんの生い立ち語り」
橋本　要「〈グラビア〉再審開始へ全力で―10・31狭山中央集会」
北口末広「大阪における『部落差別身元調査規制条例』（仮称）制定の取り組み―その経過と現状」（同右）
《部落解放同盟第41回臨時全国大会報告》（同右）
解放出版社・解放新聞社「〈グラビア〉部落解放同盟第41回臨時全国大会」

小森龍邦「『部落解放同盟綱領前文』改正に関する提案」
上杉佐一郎「本部集約」
（資料）「部落解放同盟綱領・前文」
（資料）「大会宣言」
小森龍邦「基調提案・部落解放運動をめぐる情勢と本研究集会の課題」
《部落解放研究第一八回全国集会報告書》
（『部落解放』二二四号、1月）
〈特別報告・「部落解放基本法」制定にむけて〉
高野真澄「『部落解放基本法』（仮）の概要」
森井　暲「『差別規制法』の課題」
吉元成治ほか「部落解放と共同闘争の現状と課題」（同右）
小森龍邦ほか「狭山再審闘争と司法反動との闘い」（同右）
大西正義ほか「差別事件の実態と糾弾闘争」（同右）
友永健三ほか「『基本法』制定に向けての闘い」（同右）
石川一雄「あたらしい春に」
（『狭山差別裁判』一三三号、1月）
佐々木哲蔵「新春インタビュー1　夜明けの年に」（同右）
小森龍邦「新春インタビュー2　世論で裁判所を追いこむ」（同右）
（資料）「（再審連報告）共通課題国会議員に要請」（同右）
（資料）「（連載3）一〇五の新証拠〈脅迫状の日付訂正部分〉」（同右）
（資料）「（連載3）狭山事件・報道と分析―死体発見を機に一気に」（同右）
岡　映「一九八五年を迎えて―八四年『全国闘争』の反省のうえに」（『解放の道―理論政策資料版』一二号、1月）
桜井正志「全解連東日本地方協議会からの報告」（同右）
藤谷俊雄「一九八五年の展望―戦後四〇年、われらの『総決算』」（『部落』四五三号、1月）
《特集》「部落解放運動の今日的逆流」（同右）
馬原鉄男「部落差別拡大論と排外主義路線批判―解同新綱領の問題点とその批判的検討」
（資料）「部落解放同盟綱領」
前野育三「部落解放基本法批判―規制法の問題点」（同右）
原野　翹「『興信所』条例の問題性」（同右）
堀内金義「現地報告・新しい段階にきたと畜場建設反対運動」（同右）
西岡幸利「（動向）運動・八鹿の真実を守り高裁闘争の勝利をめざす―八鹿・朝来暴力事件一〇周年集会」（同右）
阿部誠行「判決・吹田『解同』三暴力事件」
（『同和教育運動』二六号、1月）
野間　宏「異議申立の棄却決定批判」
（『世界』四七〇号、1月）
「部落解放基本法」検討委員会編『部落解放の展望をめざして「部落解放基本法」検討委員会・報告書』（同上、1月）
日本共産党大阪府委員会編『いま大阪の同和問題は』（同上、1月）

八鹿裁判弁護団編『控訴趣意書（Ⅱ）』（同上、1月）
八鹿裁判弁護団編『控訴趣意書（Ⅰ）』（同上、1月）
大阪府連編『「部落差別身元調査規制条例」仮称の二月府議会制定を実現させよう』（同上、1月）
解放新聞社編『解放新聞　第一六巻　縮刷版』（同上、1月）
「部落解放基本法」検討委員会「『部落解放基本法』制定をめざして」（『社会啓発情報』二三号、2月）
（資料）「部落差別身元調査規制条例制定を提案した大阪府同和対策審議会答申」（『部落解放』二二五号、2月）
（編集部）「すみやかに開示を―第7次証拠開示請求」
（『狭山差別裁判』一三四号、2月）
（資料）「（連載4）一〇五の新証拠〈脅迫状を届ける状況〉」（同右）
雛元昌弘「（連載4）狭山事件・報道と分析―重要な手がかりを無視」（同右）
埼玉郵便局部落解放研究会「郵政部内に頻発する差別事件」
（『脈動』五号、2月）
村越末男「八四年度夏期合宿記念講演―部落解放運動の課題と今後の指針」（同右）
狭山部会「狭山事件初動捜査に関するマスコミ資料分析・資料編」（同右）
村崎勝利「（動向）運動・第三次中央行動をバネに決意新た―'84部落解放要求貫徹全国闘争」（『部落』四五四号、2月）
八尾市職員労働組合保育所支部「現地報告・『解同』の介入はねのけ、運動会成功！―子どもと親のねがいをしっかりうけとめて」（同右）
渡辺久丸「憲法研究と部落問題―高野真澄著『日本国憲法と部落問題』を読む」（『部落問題研究』八二号、2月）
原野　翹「部落解放基本法構想の問題点」
（『部落問題―調査と研究』五四号、2月）
村崎勝利「正常化連結成一五周年の地点に立って―一九八五年部落解放運動の課題」（同右）
《資料・大阪府「興信所条例」について》
（『月刊部落問題』九九号、2月）
岸上繁雄「いわゆる『興信所条例』について」
大阪府同和対策審議会「部落差別につながる身元調査をなくする方策について（答申）」
（資料）「併記意見／府民会議総会で採択された府民アピール／専門家懇談会の討議結果」
亀田順一「〈連載〉八鹿・朝来事件控訴審にむけて（完）」
（同右）
松村晃一「不法不当な大阪府の『興信所条例』策動―『解同』の『糾弾』を公認するのか」
（『赤旗―評論特集版』四〇六号、2月）
自由法曹団大阪支部「興信所条例」検討委員会「『興信所条例』に反対する意見書」（同右）
大阪大学部落解放研究会編『部落差別身元調査規制条例の制定をめざして―部落差別身元調査規制条例をめぐる法的問題』

(同上、2月)

吉田光男後援会編『「平和と人権」を地域から　吉田光男市議会議員二年間のあゆみ』(同上、2月)

部落解放徳島地方研究集会実行委員会編『部落解放徳島地方研究集会　第五回』(同上、2月)

大阪府連婦人部編『部落解放大阪婦人集会討議資料　第一五回』(同上、2月)

部落解放研究所編『第七回研究員会議　第二一回(社)部落解放研究所総会』(同上、2月)

《特集》「再審開始を求めて」

(『狭山差別裁判』一三五号、3月)

八木晃介・山上益朗・野間宏ほか「狭山事件・えん罪・人権を語るシンポジウム」

(資料)「速報・やはり血痕反応調書はあった―横山議員国会で追及、ついに回答」

斎藤幸夫・ヒデ「この苦しみは私たちだけでたくさん―松山事件の斎藤幸夫・ヒデさん母子が語る」

雛元昌弘「(連載5)狭山事件・報道と分析―第一次逮捕の違法性〈1〉」(同右)

中央本部「『部落解放基本法』の制定を求めた闘いは部落解放・人権確立を求めた崇高な闘いである―『全解連』の主張に反論する」(『解放新聞』一二一一号、3月)

高野真澄「『部落解放基本法』立法化の背景と展望―構想と法案要綱(案)について」(『法学セミナー』三六三号、3月)

日本社会党「一九八五年度運動方針―第二部各局活動方針　国民運動　(2)反差別・人権運動」

(『月刊社会党』三四八号、3月)

部落解放同盟大阪府連合会公務員部会連絡会『「85地方行革と闘おう」―公務員部会職種別交流会報告』(同上、3月)

解放新聞社『解放新聞特集・部落解放同盟第42回全国大会討議資料』(同上、3月)

全国部落解放運動連合会『全解連第14回大会決定集』

(同上、3月)

部落解放同盟中央本部『綱領前文の理解を深めるために』

(同上、3月)

部落解放同盟福岡県連合会『部落解放第30回全国婦人集会福岡県婦人部活動報告集』(同上、3月)

部落解放同盟中央婦人対策部『部落解放第30回全国婦人集会討議資料』(同上、3月)

大阪郵便局連合部落解放研究会編『連合解放研研究集会　第一一回』(同上、3月)

部落解放同盟東京都連合会ほか編『生活の中の部落差別　部落解放第一六回東京都研究集会報告集』(解放書店、3月)

世界人権宣言大阪連絡会議編『世界人権宣言大阪連絡会議第二回総会』(同上、3月)

若竹まちづくり研究所編『人権回復のまちづくり理論』

(明石書店、3月)

部落解放同盟滋賀県連合会『部落解放同盟滋賀県連合会第三八回

定期大会資料』(同上、1985年)

八鹿裁判弁護団編『答弁書』(同上、1985年)

【理　論】

渡辺俊雄ほか「部落史研究と部落解放理論の諸問題」

(『部落解放』二二四号、1月)

亀田順一「『解放の道』理論版一年の歩み」

(『解放の道―理論政策資料版』一二号、1月)

(資料)「一九八四年二月～一二月(創刊号～第一一号)総目次」(同右)

奥山峰夫「第二二回部落問題研究者全国集会」

(『部落』四五三号、1月)

大賀正行「部落解放理論研究の新たな視点について」

(『社会評論』五一号、1月)

部落解放研究所編『部落解放を求めつづけて　原田伴彦部落問題選集』(同上、1月)

《特集》「部落問題研究の理論的諸問題」

(『部落問題研究』八二号、2月)

河村　望「戦後民主主義と部落問題」

長谷川善計「部落問題における身分と階級」

栃崎博孝「『解放の道』理論・政策・資料版一年の反省と今日の課題」(『解放の道―理論政策資料版』一三号、2月)

亀田順一「『解同』新綱領のめざすもの」(同右)

部落解放研究所編『部落解放年鑑　一九八三年版』

(同上、2月)

磯村英一ほか編『講座差別と人権　第二巻　部落Ⅱ』

(雄山閣、2月)

《特集》「『月刊・部落問題』一〇〇号記念」

(『月刊部落問題』一〇〇号、3月)

杉之原寿一「『月刊・部落問題』一〇〇号によせて」

岡　映「『月刊・部落問題』一〇〇号記念にあたって」

瀬川負太郎「状況をつくるコンパスに」

杉之原寿一『杉之原寿一・部落問題著作集　第六巻　部落差別の課題別研究』(兵庫部落問題研究所、3月)

【解放教育】

岡田健吾ほか「乳幼児の実態と就学前教育の課題」

(『部落解放』二二四号、1月)

石岡隆允ほか「子どもの実態と学校教育の課題」(同右)

井戸木一英・荒木康雄ほか「部落の教育実態と教育行政の課題」

(同右)

《特集》「子ども会活動に新たなうねりを」

(『解放教育』一八八号、1月)

〈子ども会への提言〉

山中多美男「徹底した論議を」

青木恵一「教育集団づくりから」

蔵本穂積「楽しさから奥深さへ」

前川　実「地域ぐるみの活動で」

石岡隆允「部落子ども会の源流」
清原桂子「子ども政策の動き—子どもたちの分断と統合」
石田易司「子どもを育てるボランティア活動」
塩谷幸子「ピオニール・キャンプの子どもたち」
南川健一「狭山ゼッケン登校を取り組んで」
真田裕之「めだか子ども会のその後」
河野　孝「仲間のいることを確かめつつ—小林解放子ども会の現状」
山根祥雄「口惜しいおもいをバネに—木川新田の子どもたち」
大賀正行「日之出子ども会三〇年の歴史と課題」
（資料1）「部落解放子ども会の歴史的伝統と今日的課題—大賀正行提案」
（資料2）「日之出子ども会とそれに伴う青少年会館事業の充実について」
中村拡三「〈ルポ・教育現場3〉このままでいいのか！（その1）—奈良・高松学級の子どもたち」（同右）
（『月刊どの子も伸びる』九三号、1月）
《授業と教材・生活指導》
松田佳子「〈社会科〉中学校近世学習プランと部落問題学習」
（編集部）「（同授研の教育実践）菅野小学校と授業実践」
石田真一「部落の青春—絵日記」（同右）
東上高志「講座・同和教育の実践（第一〇回・教師集団・教育集団）」（同右）
畦地享平「（動向）教育・部落問題解決の最終のランナーに—第二〇回全国高校生部落問題研究集会の教訓と課題」
（『部落』四五三号、1月）
西条久代「〈部落問題との出会い〉龍華との出会い」（同右）
《特集》「地対協『意見具申』と同和教育」
（『同和教育運動』二六号、1月）
石田真一「地対協『意見具申』とこれからの同和教育」
池田孝雄「見直しされた同和教育方針（和歌山）」
（資料）「白浜町同和教育方針／那賀町同和教育基本方針／上富田町同和教育基本方針」
川端一郎「愛媛の同和教育を考える」
西端平吉「岡山県教委の『同和教育基本方針』の策定」
（資料）「岡山県同和教育の今後のあり方について（答申）／岡山県同和教育審議会答申について（岡山県民教）」
中川光雄「奈良県の解放教育と副読本『なかま』」
野名竜二「『にんげん』—教育の条理に背くもの」
（資料）「地域改善対策協議会『今後における啓発活動のあり方について』」
福沢昭信「子ども会における人形劇上演活動の教訓—一九七〇年代・京都府船井郡の実践」（同右）
（資料）「〈東京都での動向〉人権尊重教育推進校の研究内容について／T商高差別デッチアゲと人権侵害・学校介入について」（同右）

滋賀県同和教育研究会「一九八四年度活動方針より」（同右）
玉置哲淳「幼児期の集団づくりの方向」
（『はらっぱ』三〇号、1月）
鈴木祥蔵「乳児保育をめぐって」（同右）
山中多美男「おやじの子育て日誌」（同右）
大阪府私立学校同和教育研究会編『読本「にんげん」配布ならびに活用状況の調査の集約』（同上、1月）
赤塚康雄『底辺からみた学校教育　戦前の歴史』
（解放出版社、1月）
野口道彦・野口良子『反差別の学級集団づくり　荒れる子と荒れさせる状況と』（明石書店、1月）
岩堂美智子『乳幼児の精神発達　これからの保育を考える』
（創元社、1月）
《特集》「松原の解放教育—公開授業を中心にして」
（『解放教育』一八九号、2月）
寺田圭一「やはり『これしかない』」
松原市立布忍小学校三年教師集団「授業—クレョンはぬすんだのじゃねえ」
松原市立布忍小学校「一九八四年度同和教育推進計画」
松原市立布忍小学校「地域に根ざした学力保障を」
北山貞夫「三中のはなし」
更池雑草の会指導者集団「更池雑草の会の活動」
松原市立松原第三中学校教師集団「差別と闘う子どもを地域から——松原三中の到達点」
松原市立松原第三中学校「三中解放教育の新たなる発展をめざして——一九八四年度解放教育推進計画」
田中文子「第七回全国解放保育研究集会報告——香川で」
（同右）
中村拡三「〈ルポ・教育現場・4〉このままでいいのか！（その2）」（同右）
原田光一「全国解放研に参加して」（『脈動』五号、2月）
《特集》「高校部落研活動20年」（『部落』四五四号、2月）
石田真一「青年の未来と部落問題—高校部落研活動の二〇年」
丸山幾生・北田和子・梶原美紀ほか「〈座談会〉青春・未来に生きる—楽しく学び交流を広げる部落研活動」
大西芳子「生き方教えてくれた部落研活動」
竹永百合子「友情と連帯にはげまされて」
長岡一郎「仲間とともに『よき日』をめざして」
川端一郎「第三六回全国同和教育研究大会をみる」（同右）
守安正文「〈部落問題との出会い〉高校部落研活動」（同右）
村田　拓「八鹿高校差別教育糾弾闘争に参加して——②その意義と独自性」（『差別とたたかう文化』一四号、2月）
石田真一「連載・部落の青春——開戦の日」
（『月刊どの子も伸びる』九四号、2月）
東上高志「講座・同和教育の実践（第一一回・逆流との訣別）」
（同右）
（資料）「〈判例紹介〉特報・いわゆる私学訴訟控訴審判決」

（『判例タイムズ』五四一号、2月）
寺木ゼミ卒論文集作成委員『一九八四年度寺木専門演習卒業論文集』（同上、2月）
川内俊彦『実践・同和教育の手引』（明石書店、2月）
わたなべひろやす『教師から変わる　部落解放の教育運動』（社会評論社、2月）
池田孝雄『子どもと人権意識』（兵庫部落問題研究所、2月）
大阪府立高等学校同和教育研究会編『高校同和教育第五回研究集会討議資料』（同上、2月）
川向秀武「現実との格闘ぬきに解放教育はありえない」
《特集》「解放教育の前進のために―一九八四年をふりかえって」（『解放教育』一九〇号、3月）
玉置哲淳「解放保育運動の課題と展望」
中野陸夫「部落問題学習はどこまですすんだか」
福田雅子「社会啓発の今後の課題」
山本義彦「フィールド・ワークを通して」
中山武敏「狭山事件の証拠構造と部落差別」
田村賢一「大阪における解放奨学金『貸与』化反対闘争」
有田　耕「たたかいの意志はエンドレスに」
第二次解放教育計画検討委員会事務局「第二次解放教育計画検討委員会のとりくみ（中間報告）」
山川　静「子どもたちは今競争主義の中で」
吉郷幸治「『カンテラ』は山むこうの灯」（同右）
土田光子「一年九組はアカネいろ」（同右）

井野元正信「子ども会からのレポート―親のねがいから出発して」（同右）
中村拡三「〈ルポ・教育現場・5〉荒野に学力が育つとき（その1）」（同右）
《特集》「地域から教育を―第一四回全国解放教育研究集会」（『解放教育』一九一号、3月）
全国解放教育研究会事務局「基調提案・地域からの教育をどう育てるか――教育改革で固めるものは何なのか」
〈I　実践レポート〉
吉川敬子「親の思いがわかりきらん」
松岡一幸「私の生いたちと部落解放への思い」
園田庄治「自分の位置するところに気づいて――M子とのかかわりから」
乾　啓子「あれる子を中心にした学級集団づくり」
原尻早苗「あんたはただの石ころよ」
荒川雅清「子どもの願いを受けとめる子ども会活動」
五百田秀子「お母ちゃんに教えられて」
（資料）「しんやくんのこと」
〈II　分科会から――第一分科会再録――報告と討論〉
梅本善昭「報告1・解放塾にかかわって」
木村勝子「報告2・先生よろしくお願いしますといわれて」
野田稜三郎「報告3・共に解放をめざす同和教育」
〈III　シンポジウム・教育改革をめぐって〉
鈴木祥蔵「『社会権としての教育権』の観点を」

寺澤亮一「いわゆる『教育臨調』に抗うために」
渡久山長輝「身近なところから論議を」
〈IV　三重の解放教育運動〉
中村拡三「フィールドワーク・朝熊――歴史は継承されているのか」
水越靖江「日教組指導部、またもレポート排除、発言を封じる―日教組第三四次・日高教第三一次教育研究全国集会第十八分科会」（『部落』四五五号、3月）
藤田隆介「（動向）研究・第二六回全国学生部落問題研究ゼミナール、成功おさめる」（同右）
石田真一「部落の青春――授業」（『月刊どの子も伸びる』九五号、3月）
東上高志「講座・同和教育の実践（最終回・河瀬実践の子どもたち）」（同右）
村越末男「連載講座・学校でなぜ同和教育が必要なのか（第一二回）―国際的な視野にたった人権教育を」（『学校運営研究』二九四号、3月）
中道保和「人権教育に重大な汚点」（『労働運動』二三二号、3月）
荒尾立夫「あたりまえの教育めざして」（同右）
池田　寛「被差別部落における教育と文化―漁村部落における青年のライフ・スタイルに関するエスノグラフィー」（『大阪大学人間科学部紀要』一一号、3月）
大阪「同和」教育推進校PTA連絡会『PTAにおける啓発活動の実態調査報告』（同上、3月）
杉尾敏明『部落解放と民主教育（阪南大学叢書）』（青木書店、3月）
全国解放教育研究会『解放教育の原則と展望　解放教育の展開6』（明治図書、3月）
全国同和教育研究協議会『同和教育　第二三巻（№ 265～276）』（同上、3月）
岸本裕史『すべてのこどもに確かな学力を』（部落問題研究所、3月）
第二次解放教育計画検討委員会編『第二次解放教育計画検討委員会「最終報告」―地域からの教育改革―大阪の解放教育計画運動の一〇年』（解放出版社、3月）
埼玉県立飯能高等学校編『部落の現状　一九八四年版』（同上、1985年）

【人　権】

田中　宏「指紋拒否が明らかにし、問うていること」（『部落解放』二二三号、1月）
中島敏彦ほか「人権条約と平和・反差別共闘の闘い」（『部落解放』二二四号、1月）
セレッツエ・チョアビ、笹原溪助（通訳）「FOR A FREE―南アフリカの子どもたちの闘い」（『解放教育』一八八号、1月）
趙　根在「〈ハンセン病の同胞たち・1〉キブシヤマのころ」

(同右)
本田　豊「えん罪—狭山事件前史—⑧　美砂子ちゃん殺し事件」
(『狭山差別裁判』一三三号、1月)
福井健弥「奄美差別について」
(『部落解放研究くまもと』七号、1月)
丹波正史「人種差別撤廃条約の批准と今日的争点」
(『解放の道—理論・政策・資料版』一二号、1月)
松本公忠「トラベリング・ピープルと教育—変化をみつめる子どもたち〔1〕アイルランドにおけるマイノリティ・グループ『トラベリング・ピープル』について」
(『部落』四五三号、1月)
《アフリカの飢餓—その現状と原因》
(『世界政治—論評と資料』六八四号、1月)
(資料)「アフリカの危機的経済状態にかんする決議と宣言—国連総会本会議で採択(1984年12月3日)」
(資料)「アフリカの経済的、社会的危機にかんする特別覚書(抜すい)—国連経済社会理事会アフリカ経済委員会閣僚会議ならびに総会で採択」
保阪正康「集積される個人データ」(『世界』四七〇号、1月)
キャサリン森川、粉川哲夫、佐藤文明「見えない檻—戸籍・国籍をめぐって」(同右)
市　雄貴(聞き手)「祖国文化の継承を目指す在日韓国人三世—曺功鉉・前韓学同委員長に聞く」
(『朝日ジャーナル』一三五五号、1月)

西村陽一「〈社会〉長野・韓国籍女性の教員採用を取り消した県教委の弱腰」(同右)
大川一夫「釜ケ崎と居宅保護」(『季刊釜ケ崎』一〇号、1月)
山崎倫子、山口みつ子「〈対談〉〝世界でいま、なにが…〟—第39回国連総会の報告—ナイロビ会議をひかえて」
(『あいふぁーらむ』二九号、1月)
編集部「労働権脅かす派遣事業の法制化」
(『労働運動研究』一八三号、1月)
内田和子「'84版『婦人労働白書』批判」(同右)
栗原貞子「国家の戦争責任と被爆者」
(『月刊社会党』三四五号、1月)
的場徳造、(聞き手)早川修二「〈インタビュー〉アフリカの飢餓問題をどうみるか—新手の反社会主義宣伝を批判する」
(『社会評論』五一号、1月)
前沢　猛「欧米諸国の『報道と人権』—新聞評議会の評決事例を中心に」(『新聞研究』四〇二号、1月)
楠原　彰「アフリカの飢餓はだれの問題か—飢餓キャンペーンの欺瞞性」(『新日本文学』四四八号、1月)
中山和久「現代権利闘争の課題—ヨーロッパにおける情勢をふまえて」(『労働法律旬報』一一一一・二号、1月)
《総特集》「世界の教育と教育改革」
(『季刊教育法』五四号、1月)
海老原治善「世界の教育改革から何を学ぶか」
桑原敏明「(フランス)いきいきとした学校をめざして」

孫　春美「民族保育をめぐって」(『はらっぱ』三〇号、1月)
竹沢哲夫「再審裁判の動向と評価」
(『法と民主主義』一九四号、1月)
(編集部)「アフリカの危機」
(『月刊国連』六四巻一号、1月)
木村愛子「OA化と働く女性の意識—関連調査報告書に見る実態分析」(『季刊労働法』一三四号、1月)
吉見周子「婦人解放運動の系譜」
(『歴史公論』一一〇号、1月)
日本弁護士連合会人権擁護委員会『刑事鑑定の手引(第二冊)』
(同上、1月)
飛べ鳥たちよ!「冤罪と人権」展『飛べ鳥たちよ!「冤罪と人権」展』(同上、1月)
林　茂夫『無防備地域運動と「平和に生きる権利」のための闘争』(同上、1月)
夏木幸作『貧富の差　ニュー社会党への期待と直言』
(にんげん社、1月)
李　淑子『教科書に描かれた朝鮮と日本　朝鮮における初等教科書の推移』(ほるぷ出版、1月)
伊藤正孝編『アフリカ難民　悲しみの大地から』
(ほるぷ出版、1月)
中野不二男『アボリジニーの国　オーストラリア先住民の中で』
(中央公論社、1月)
三留理男『飢餓　エチオピア緊急報告』(光文社、1月)

同人ナグネ編『同人ナグネ　第二号』(同上、1月)
清水宣行「書評『アメリカの平等雇用』」
(『社会啓発情報』二三号、2月)
金　東勲「人種差別撤廃条約批准のために⑤—第七条　教育・文化・情報等の分野における差別撤廃精神の普及」(同右)
村越末男「〈海外レポート〉差別主義の抬頭と軍国化の動き—アメリカ、イギリス、インドはいま」
(『部落解放』二二五号、2月)
(編集部)「南アフリカ解放組織の代表、大阪・部落解放センターを訪問」(同右)
《特集》「拘禁二法はいらない」
(『狭山差別裁判』一三四号、2月)
高階叙男「真の人権保障のために」
天野　等「(インタビュー)時代に逆行する悪法」
本田　豊「えん罪—狭山事件前史—⑨　埼玉県警のあいつぐ不祥事件(上)」(同右)
趙　根在「〈ハンセン病の同胞たち・2〉岐阜のアタン山へ」
(『解放教育』一八九号、2月)
竹沢節子・鈴木　淳「埼玉県教委交渉との経過報告—川口の掘りおこし」(『脈動』五号、2月)
松本公忠「トラベリング・ピープルと教育—変化をみつめる子どもたち〔2〕定住化政策とトラベリング・ピープル」
(『部落』四五四号、2月)
《特集1》「ヒロシマ・ナガサキ被爆四十周年—その意味」

（『ヒロシマ・ナガサキの証言'85』十三号、2月）

今堀誠二「原爆被爆四十周年への提言」

広島の証言の会編集委員会「ヒロシマ・ナガサキを問い続けることの意味」

《特集2》「被爆四十年と非核宣言運動」（同右）

西田　勝「非核自治体運動の現在」

《特集》「障害者―自立と共生」

（『差別とたたかう文化』十四号、2月）

藤林晋一郎「被差別部落の『障害者』の状況―その差別の構造をめぐって」

井上正一「障害児を捨てる民俗―古代・中世仏教と障害者」

楠　敏雄・生瀬克己・村田　拓「〈座談会〉障害者―自立と共生」

全国障害者解放運動連絡会議「全障連第九回大会基調」

近藤良一「地域の校区で共に生きる」

溝口　弘「Y君への反論―自立って、解放って何だろう」

本田実子「無実の『死刑囚』赤堀政夫さんの無罪釈放を―島田事件の31年」

福本武久「共に生きる明日の地平は?―書評・村田拓『荒れすさぶ野に立つ子ら』『シュウの脱出』」

崔南竜ほか「『孤島』―韓国人ハンセン氏病患者の生活記録1」

（同右）

村田恭雄「カースト制と不可触民差別(3)」（同右）

呉　千恵「私たちの祭り、生野民族文化祭―84年秋、大阪・猪飼野から」（『新日本文学』四四九号、2月）

《特集》「日本の戦後責任とアジア」

（『季刊三千里』四一号、2月）

辛　基　秀「〈グラビア〉郵便屋さんの孫君、李君」（同右）

小川雅由「外国人登録業務と自治体労働者」（同右）

藤枝澪子「女の戦後史（97）ウーマンリブ―『男は社会』『女は家庭』二極分化への異議申し立て」

（『朝日ジャーナル』二七巻七号、2月）

（資料）「文部省、家庭科教育に関する検討会議の報告」

（『月刊婦人展望』三四七号、2月）

（資料）「第三九回国連総会報告会」（同右）

瀬戸英雄、海渡雄一「開かれた行刑をめざして―日弁連拘禁二法案対策本部試案の概要」

（『自由と正義』三六巻二号、2月）

拘禁二法案対策本部「（資料）監獄法改正に関する対策本部試案」

（同右）

深海博明「ロメ協定にみる新しい南北問題―太平洋時代の日本に問われるもの」（『エコノミスト』二六〇八号、2月）

新崎盛暉「『琉球弧の世界』から―持続する運動の明日」

（『エコノミスト』二六一〇号、2月）

《特集》「離婚をめぐる諸問題」

（『法律のひろば』三八巻二号、2月）

石川利夫「離婚制度の法律上の課題」

桜井正人「離婚による母子世帯への福祉施策の現状」

《特集》「国連婦人の十年婦人会議にむけて」

（『賃金と社会保障』九〇八号、2月）

島田信義「雇用機会均等法の問題点と今後の対応」

広木道子「東南アジアの婦人労働者」

居城舜子「『差別の経済学』の批判・検討―特に性差別とのかかわりで」

荒又重雄「婦人労働における保護と平等―報告と討論のあらまし（社会政策学会第69回研究大会諸報告から）」

島田信義「男女雇用平等法をめぐる立法論の視点―現局面でとりうべき方向についての一考察」

（『労働法律旬報』一一一一・二号、2月）

《特集》「就労構造の変化と労働政策の転換」

（『労働法律旬報』一一一三号、2月）

脇田　滋「労働立法・労働行政をめぐる動向と問題点」

海渡雄一、瀬戸英雄「監獄法改正についての提言―日弁連拘禁二法案対策本部試案について」

（『ジュリスト』八二九号、2月）

阪本昌成「『人格権』に基ずく自己情報の訂正請求権―在日台湾人調査票訴訟東京地判昭和59年10月30日を素材にして」

（同右）

浦野恵子「正念場むかえる雇用機会均等法案審議―男女差別を隠す財界の合理化論」

（『赤旗―評論特集版』四〇六号、2月）

小川早苗「アイヌ　ネノ　アン　アイヌ―アイヌ民族法制定の運動」（『歴史地理教育』三七八号、2月）

野村二郎「ヨーロッパ人権裁判所」

（『判例タイムズ』五四二号、2月）

江尻　進「『新聞の自由』をめぐる政治的対立――米国のユネスコ脱退をめぐって」（『新聞研究』四〇三号、2月）

指紋押捺拒否予定者会議『指紋問題討議資料　第一集』

（同上、2月）

豊中市同和教育研究協議会在日朝鮮人教育専門部会『サントッキ』（豊中市在日朝鮮人教育研究会、2月）

木下太郎『世界諸国の憲法集　第2巻』（暁印書館、2月）

青木　悦『やっと見えてきた子どもたち』

（あすなろ書房、2月）

小林哲也・江淵一公『多文化教育の比較研究　教育における文化的同化と多様化』（九州大学出版会、2月）

法律文化社編『憲法の科学的考察　上野裕久教授退官記念』

（同上、2月）

朝日ジャーナル編『女の戦後史Ⅱ（昭和30年代）』

（朝日新聞社、2月）

大阪市外国人教育研究協議会編『さらむ　えほん2』

（ブレーンセンター、2月）

ＩＬＯ編『ＩＬＯ世界労働報告　第1巻』

（日本労働協会、2月）

横山晃一郎『誤判の構造　日本型刑事裁判の光と影』

（日本評論社、2月）

鈴木忠五『世にも不思議な丸正事件』（谷沢書房、2月）
法務省民事局内法務研究会編『改正国籍法・戸籍法の解説』（金融財政事情研究会、2月）
浅野健一『犯罪報道の犯罪』（学陽書房、2月）
生活問題研究所編『イタリア協同組合レポート　暮らしを変え、地域を変えるプログラム』（合同出版、2月）
前　圭一『〝草の根〟のファシズム　奈良県における右傾化の地域戦略』（兵庫部落問題研究所、2月）
《女性差別撤廃条約・人種差別撤廃条約の早期批准を求める集会から》（『部落解放』二二七号、3月）
友永健三「集会を終えて」
ロザリオ、G・マナロ—「女性の地位向上を目的として『国連婦人の十年とその後』に向けた国連の挑戦」
ホセ、L・ゴメスデルプラド「人種差別撤廃条約の役割と対象範囲」
猿谷　要「〈上杉佐一郎　HOT　SPOT〉アメリカの黒人解放運動に学んで」（同右）
趙　根在「〈ハンセン病の同胞たち・3〉舞台の袖から」（『解放教育』一九〇号、3月）
本田　豊「えん罪—狭山事件前史—⑩　埼玉県警のあいつぐ不祥事件（下）」（『狭山差別裁判』一三五号、3月）
松本公忠「トラベリング・ピープルと教育—変化をみつめる子どもたち〔3〕シスター・コレット・ドワイヤー先生の偉大な業績」（『部落』四五五号、3月）

《特集》「開始された情報帝国主義との闘い」（『社会評論』五二号、3月）
沢木　勇「情報の流れを人民の手に—情報独占体に抗し新国際情報秩序の確立を」
アジア・アフリカ人民連帯機構「マス・メディアを平和と発展の武器に！—新国際情報秩序に関するＡＡＰＳＯ会議」
アジア・アフリカ人民連帯機構「情報植民地化からの脱却をめざそう—新国際情報秩序に関するＡＡＰＳＯ会議の最終コミニュケ」
再審法改正実行委員会「〈委員会活動報告〉再審法改正へ今年こそ」（『自由と正義』三六巻三号、3月）
《深まるユネスコの危機》（『朝日ジャーナル』一三六二号、3月）
内山　真「『脱退検討』発言で日本も一役」
久保田誠「再建か衰弱か四〇歳の国連」
大羽綾子「女の戦後史（98）ポスト国際婦人年—市民権を得た『婦人』問題のワクを脱するとき」（『朝日ジャーナル』二七巻八号、3月）
《特集》「もうひとつの地域運動を求めて」（『福祉労働』二六号、3月）
人権擁護委員会「〈委員会活動報告〉死刑再審三事件の無罪確定—人権擁護活動の多様化」（『自由と正義』三六巻三号、3月）
（編集部）「脱退問題に揺れるユネスコと日本—西側先進国ＶＳ

・ソ連・途上国グループ」（『エコノミスト』二六一一号、3月）
《特集》「労働立法改悪と労働者の権利」（『法と民主主義』一九五号、3月）
田端博邦「日本資本主義の構造変化と労働法制の再編」
《特集》「ソ連とアフリカ」（『社会科学』四二号、3月）
《特集》「国際婦人年一〇年—変貌する婦人労働者の状態と闘い」（『労働運動』二三二号、3月）
《特集》「労働者派遣事業法制化の検討」（『ジュリスト』八三一号、3月）
小林亮淳「自白強要の取り調べ施設を法認する警察拘禁二法」（『赤旗—評論特集版』四〇九号、3月）
山田史郎「レオナルド・コヴェロと民族の多様性—ニューヨーク市イーストハーレムのコミュニティ・スクール、1934—45年」（『同志社アメリカ研究』二一号、3月）
小木曽陽司「代用監獄の恐怖—『自白』はどうつくられるか—警察拘禁二法の再上程を許すな」（『赤旗—評論特集版』四〇七号、3月）
（資料）「第39回国連総会で採択された『アフリカの危機的経済情勢に関する宣言』」（『月刊国連』六四巻二号、3月）
大塚明子「差別撤廃条約と戦後労働政策の総決算」（『労働運動』二三二号、3月）
（資料）「〈判例特報(1)〉梅田事件再審開始抗告審決定」（『判例時報』一一四一号、3月）

女性の権利に関する委員会「〈委員会活動報告〉男女雇用機会均等法案にあけくれた一年」（『自由と正義』三六巻三号、3月）
タラブリン「1980年代のアフリカの諸問題」（『社会科学』四二号、3月）
孝忠延夫「Ｂ・Ｒ・アンベードカルとインド憲法(一)—少数者保護規定を中心として」（『関西大学法学論集』三四巻六号、3月）
田中稔男「新国際情報秩序に関するＡＡＰＳＯ会議に出席して」（『マスコミ市民』二〇〇号、3月）
藤本　武「賃金・生活の国際比較」（『労働運動』二三二号、3月）
石田秀樹「解説・ＩＬＯ条約のすべて（下）」（『労働運動』二三二号、3月）
山田経三「解放の神学と日本」（『世界』四七三号、4月）
ルーベン・アビト、山田経三『解放の神学と日本　宗教と政治の交差点から』（明石書店、3月）
嶋田津矢子『婦人解放と結婚の将来（関西学院大学研究叢書）』（ミネルヴァ書房、3月）
労働省職業安定局雇用促進室『雇用と人権・平等に関する国際条約（未批准・仮訳分）』（同上、3月）
桃山学院大学人権委員会『障害者差別からの解放』（同上、3月）
徐　正禹『よりよき隣人として』

（在日韓国・朝鮮人問題学習センター、3月）
篠田　豊『苦悶するアフリカ　（岩波新書二九四）』（岩波書店、3月）
経済労働研究会編『女性解放における平和・民主主義達成と社会主義的任務』（同上、3月）
教育図書総目録刊行会編『障害児教育図書総目録　1985年版』（同上、3月）
杉本貴代栄『アメリカ女性学事情　レーガン政権下の福祉社会』（有斐閣、3月）

【社会啓発】

上杉佐一郎・大谷昭宏「市民啓発の現状と課題（宗教含む）」（『部落解放』二二四号、1月）
吉田勝美ほか「職場啓発の現状と課題」（同右）
東上高志「（講座やさしい部落問題　10）Ⅳ国民的課題に（その一）国民の運動に」（『部落』四五三号、1月）
篠崎巳喜男「（動向）第二回社会同和教育交流研究集会」（『同和教育運動』二六号、1月）
横田耕一「部落差別と労働権—米国の事例から学べるもの」（『社会啓発情報』二三号、2月）
東京同和問題企業連絡会「参加できる取り組みをめざして」（同右）
大西正義「部落解放の人間像—私の青春時代」（同右）
香野貞人「連載・企業研修の課題⑤—研修推進員制度と指導者の養成」（同右）
大阪府同和対策審議会「資料・部落差別につながる身元調査をなくする方策について（答申）」（同右）
東上高志「（講座やさしい部落問題　11）Ⅳ国民的課題に（その二）国民の教育に」（『部落』四五四号、2月）
《シンポジウム「正しい啓発活動」をめぐって》
（『国民融合通信』一一八号、2月）
寺田富夫「これからの諸課題」
丸山　勇「考えたこと若干」
（資料）「〈第27回人権と部落問題講座〉シンポジウム『正しい啓発活動のあり方を考える』—地対協『意見具申』と関連させながら」（『部落』四五五号、3月）
東上高志「（講座やさしい部落問題　12）（最終回）Ⅳ国民的課題に（その三）国民の行政に」（同右）
鐘ケ江晴彦「住民意識と社会『同和』教育—上田市西部・塩尻地区調査から」（『社会科学年報』一九号、3月）
三宅一郎ほか『平等をめぐるエリートと対抗エリート』（創文社、3月）
北九州市同和問題啓発推進協議会『論集いぶき5　同和問題を語る』（同上、3月）
仲島隆夫『同和教育と市民啓発　続編（京都教育大教育実践年報抜刷）』（京都教育大学、3月）
磯村英一『同和問題と人権啓発』（解放出版社、3月）

【文化・思想】

寺本　知ほか「部落解放を闘う文化の現状と課題」（『部落解放』二二四号、1月）
江藤巧也「連載・差別者の群れの中に〈9〉」（『解放教育』一八八号、1月）
《特集》「佐渡の芸能大学」（『月刊部落問題』九八号、1月）
北川鉄夫「伝統芸能の継承をめぐって」
丸岡忠雄「佐渡の芸能」
村崎修二「佐渡の芸能大学と猿舞座」
五木寛之『風の王国』（新潮社、1月）
《特集》「旅芸人の世界」（『部落解放』二二五号、2月）
沖浦和光「アジアにおける賤民芸能の位置—芸能は、なぜ賤民層によって担われたのか（その1）」
織田紘二「日本の放浪芸能—その歴史と展開」
小西正捷「インド芸人社会の特質—史的素描」
久保　覚「朝鮮賤民芸能のエートス—流浪芸能集団『男寺党』をめぐって」
朴　銓　烈「韓国社会と放浪芸」
土方　鉄「大地を踏み踊る—『旅芸人の世界』をみて」
ナトゥラム・ボーパ、テージャー・ボーピ「〈インタビュー〉ボーパー砂漠の英雄をたたえる絵とき歌」
金在元・崔殷昌・南基文「〈インタビュー〉男寺党—日帝の弾圧下を生きぬいて」
ラムサハイ・パンデ、チャンドラ・バティ、アニタ・バイ「〈インタビュー〉ラーイー—神に捧げる情熱と官能の踊り」
本誌編集部「セミナー『放浪芸の世界』から」
橋本　要「〈グラビア〉旅芸人の世界」
山中正義「（土佐の部落の昔ばなし世間ばなし　その1）一助爺さん意趣返し」（同右）
《創る—みんなでつくる文化のページ》（同右）
《第11回部落解放文学賞入選作品》（『部落解放』二二六号、2月）
〈入選作〉
田中カネ子「（識字部門入選）芸者に売られたこと」
北田タミ子「（識字部門入選）タビ作りの思い出」
上田わこ「（詩部門入選）冬のひがん花に」
松本太吉「（小説部門入選）奥の谷へ」
松江ちづみ「（児童文学部門入選）父ちゃんのアサガオ」
〈佳作〉
長谷川健二「おっ母ぁ」
組坂道子「『ボロは、ありまっせんの—』」
後藤　順「六感めのために」
吉村美代子「住吉さん」
中田スミ子「うちの〃クロ〃ちゃん」
松村継枝「結」
福田典子「笑顔」

西田ふみゑ「女はそんや」

〈選評〉

国分一太郎・土方　鉄・日野範之「（識字記録文学）一つの事柄にしぼって鮮明に」

野間　宏・井上光晴・川元祥一「（小説）見えないところまで見透す想像力」

高良留美子・日野範之・直原弘道・近藤計三「（詩）書いた詩を、もう一度練りなおそう」

上野　瞭・今江祥智・稲垣有一「（児童文学）読めるものがやっとでてきた」

宮本　研・岩田直二・村田　拓「（戯曲）もっと自分自身の眼でみてほしい」

竹内泰宏・村越末男・宮本正人「（評論）新しい芽が育ってきている」

「受賞のことば」

「応募作品一覧表」

江藤巧也「連載・差別者の群れの中に〈10〉」
（『解放教育』一八九号、2月）

北川鉄夫「〔21世紀を展望して〕④文化活動の若干の問題―私的な経験の中から」（『部落問題―調査と研究』五四号、2月）

大橋忠雄『民話の中の被差別部落像』（明石書店、2月）

住井すゑ『八十歳の宣言　人間を生きる』（人文書院、2月）

多田恵美子「（連載・歌い継ごう部落の伝承歌　第一回）―唄の力の継承と再生を」（『部落解放』二二七号、3月）

江藤巧也「連載・差別者の群れの中に〈11〉」
（『解放教育』一九〇号、3月）

田宮　武「たたかう姿勢の強化をめざしてほしい」
（『マスコミ市民』二〇〇号、3月）

塩見鮮一郎「『浅草弾左衛門』余話」
（『新日本文学』四五〇号、3月）

村田　拓「『非部落宣言』も、やっぱし『人権宣言』やろか―人間的・社会的責任を根底に」（同右）

奈良県部落解放研究所『こうして生きてきた　運動Ⅰ　生活・労働・文化ききとり調査報告』（同上、3月）

【宗　教】

《特集》「宗教と部落問題―墓石法名問題を考える（その二）」
（『部落解放研究くまもと』七号、1月）

熊本県部落解放研究会「熊解研の見解」

浄土真宗本願寺派同朋運動本部「矢部町墓石についての確認事項と今後の課題」

熊本日日新聞から「西本願寺正式に認める」

大塚正文「『差別墓石』が提起したもの」

浄土真宗本願寺派熊本教区教務所長「墓石問題についての米村龍治氏新聞投稿に関すること」

中村益行「差別法名問題に思う」

中外日報から「本願寺派熊本教区調査委が見解を答申」

信田泰之「宗教と部落問題」

菊池成明「差別法名が提起すること」

毎日新聞から「戒名問題をめぐって―毎日新聞『読者の目』から―」

中村益行「その後の差別法名問題」

木津　譲「講座『宗教と部落問題』」

大塚正文「矢部町被差別部落の歴史と民俗」

日野賢隆「真宗僧の地区改善について」

木津　譲「『大宗連』・宗教者に望む」

阿部野竜正「差別ではない性霊集の言葉」

加藤西郷「宗教と部落問題―宗教者の姿勢」
（『部落問題研究』八二号、2月）

小森龍邦『部落解放の原点と宗教』
（新日本宗教団体連合会、2月）

部落解放同盟長野県連『被差別部落の墓標　信州の差別戒名考』
（同上、3月）

「部落差別と宗教」研究会『人間と差別と宗教』
（同上、3月）

同和推進本部『身同　同和研究紀要　6号』
（真宗大谷派宗務所、3月）

【通　史】

寺本　知「『水平社宣言』の精神を受けつぐ人々」
（『部落解放研究くまもと』七号、1月）

藤谷俊雄「連載・二〇世紀に生きる―あるインテリの自伝的歴史〔20〕〝転向〟」（『部落』四五三号、1月）

塚本景之「（動向）研究・運動・研究に大きな意味をもつ『三木証言』―『部落問題研究』80号によせて」（同右）

小林　茂編『人権の歴史　同和教育指導の手引』
（山川出版社、1月）

北足立北部部落解放研究会「『原市の歴史と現在』―これまで調べたこと考えたことのメモノート」（『脈動』五号、2月）

《追悼・井元麟之―人とその思想》
（『部落解放史ふくおか』三五・三六・三七号、2月）

小林先生の古稀を祝う会実行委員会編『小林茂先生の古稀を祝う会』（同上、2月）

藤谷俊雄「連載・二〇世紀に生きる―あるインテリの自伝的歴史〔21〕高校卒業」（『部落』四五四号、2月）

岡あきら「荊冠記第四部『暁雲』第七章」
（『部落問題―調査と研究』五四号、2月）

植木　等「父・徹誠を語る」（『部落解放』二二七号、3月）

桑原　律「〈部落問題との出会い〉遠い幻影」
（『部落』四五五号、3月）

藤谷俊雄「連載・二〇世紀に生きる―あるインテリの自伝的歴史〔22〕友の証言」（同右）

長崎県部落史研究所『第三回九州地区部落解放史研究交流会報告集』（同上、3月）

【前近代】

源城政好「皮革」（『こぺる』八五号、1月）

三浦圭一「（部落の生活史28）倒れた牛」（『部落』四五三号、1月）

藤本清二郎「和歌山城下、吹上非人村の形成と展開」（『和歌山地方史研究』八号、1月）

高知県立図書館編『憲章簿　土佐藩法制史料　職人・商人・郷人・寺社・耶蘇・浪人・医師・遍路・盲人・穢多・牛馬編』（同上、1月）

田良島哲「葬送」（『こぺる』八六号、2月）

井手幸喜（解説）「資料・丹波国菟原下村家作願いに関する史料」（『部落問題研究』八二号、2月）

三浦圭一「（部落の生活史29）一枚の証文」（『部落』四五四号、2月）

人見彰彦「備前の部落焼打一件」（『部落問題—調査と研究』五四号、2月）

研究部会（前近代）「〔史料解読〕芝居・相撲由来書」（同右）

東原那美「国衙領の神・白山神社の推移と部落成立の実態について」（『信濃』四二二号、2月）

安達五男「〔史料の紹介〕部落寺院と神事関係史料（その1）—氷上郡西田家文書」（『武庫川女子大学紀要　文学部編』三二号、2月）

高市光男「（部落の生活史30）われも人なり」（『部落』四五五号、3月）

斎藤洋一「村明細帳よりみた信州佐久郡五郎兵衛新田村（下）」（『学習院大学史料館紀要』三号、3月）

西木浩一「近世武州における『長吏』の信仰生活」（『人民の歴史学』八三号、3月）

石尾芳久『続・一向一揆と部落』（三一書房、3月）

【近現代】

飛鳥井雅道・白石正明・辻ミチ子・師岡佑行「近代初頭、京都の被差別部落の生活（上）—『京都の部落史6史料近代1』の発刊に寄せて」（『こぺる』八五号、1月）

師岡佑行「全国水平社の創立と『過去半世紀』」（『歴史公論』一一〇号、1月）

飛鳥井雅道・白石正明・辻ミチ子・師岡佑行「近代初頭、京都の被差別部落の生活（下）—『京都の部落史6史料近代1』の発刊に寄せて」（『こぺる』八六号、2月）

鈴木　良「中西義雄部落問題著作集　全三巻　完結によせて—中西義雄の戦後解放運動史研究について」（『部落』四五四号、2月）